

「命」を最大の価値基軸に、事故原因に向き合い、 安全な鉄道を確立しよう！！

2014年2月23日 1:11頃、京浜東北線川崎駅構内において、資材搬入のために載線した軌陸車に回2402Aが衝突し、1・2両目が脱線するという大事故が発生しました。回2402Aを乗務していた運転士と車掌は奇跡的に軽症ですみ、工事関係者は列車の進入に気づき負傷者はいませんでした。事故直後、運転士は自らが負傷しながらも懸命に列車防護をおこないました。また、事故復旧にむけて多くの社員が今もなお現地での対応を行っています。改めて、事故の対応にあたっている全ての関係者に敬意を表します。

今回の事故は、横転し大破した車両の状態を見れば、命を落としてもおかしくない重大な事故です。その状況は、1999年2月21日に発生した山手貨物線触車死亡事故を彷彿とさせるものです。私たちは、今回の事故を真摯に受け止め、二度と発生させないために、再発防止に取り組んでいかなければなりません。

JR東労組は、山手貨物事故を受け、作業優先の企業体質を変えるために、徹底した職場討議をおこないました。そして、労使が事故に正面から向き合い議論することを通じて、線路内作業は原則として線路閉鎖でおこなう「原則線閉」を確立しました。その精神は、二度と仲間の命を奪わせないという命を最大の価値基軸にした安全への誓いからつくり上げたものです。

安全を第一に列車を運行することは鉄道事業者として最大の使命です。これまで築き上げてきた「責任追及から原因究明へ」の安全風土を継承し、定着させることが今ほど求められている時はありません。

現在、事故原因は明らかになっていませんが、今後、私たちは現場の状況から背後要因を的確に捉え、徹底した原因究明をおこなわなければなりません。その上で、ハード・ソフト両面から再発防止対策を打ち出こととします。

全組合員の皆さん！

今こそ、本来業務に集中し、職場から安全風土再確立に向け、たたかい抜こうではありませんか！！

2014年2月23日

東日本旅客鉄道労働組合